

○ 9 番（佐々木昇）

9 番議員、佐々木昇でございます。きょうは、図書室の現状と今後の方向性及び子どもの読書活動推進について、5 項目の質問をさせていただきます。

開成町教育振興基本計画に定める事業に生涯学習プログラムの充実があります。中でも、町民に対し図書サービスの充実を図っていくことは、教育の町かいせいにふさわしく大変すばらしいものであると感じます。しかし、蔵書冊数は近隣市町村に比べまだ大幅に少なく、閲覧カウンターも狭いのが現状であります。本来なら、町民の教育、文化の質の向上を担う場、また生涯学習の拠点として図書館の建設が望ましいのですが、昨今の財政状況では近々での建設は厳しいと思います。町民ニーズにこたえる図書室のあり方をお伺いします。

1、図書室の基本方針について、滞在型か貸し出し中心型、2、図書室機能の充実について、新刊図書雑誌の迅速な確保、レファレンスサービス、3、利用状況の変化はあるのか、4、一般公募による図書室協議会の設立、5、子ども読書活動推進計画への取り組みについて、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

佐々木議員のご質問に順次、お答えしたいと思います。

初めに、一つ目の図書室の基本方針について、滞在型か貸し出し中心型についてですけれども、現在の利用状況は、ある程度、滞在してから図書資料の検索、閲覧をした上で貸し出しをするという形態です。滞在型による閲覧スペースの増設または貸し出し中心による機能の拡大などに特化する計画は、今のところありません。利用者のニーズを把握しつつ一般的な運営をしていきたいというふうに考えております。

続きまして、二つ目の図書室機能の充実について、新刊図書雑誌の迅速な確保、レファレンスサービスについてのご質問ですが、機能の充実として貸し出しの傾向や利用者からのリクエスト等によって迅速に新刊図書を到達するとともに、最新の情報が発信される雑誌の継続的な確保等に努めています。また、利用者から、ある目的のための情報資料が求められたときは、適宜、図書司書を中心に検索、提供、回答をしており、蔵書がない場合には、県内の図書館情報ネットワークを通じまして他の図書館から資料の提供を受けて、利用者が不便を感じないように対応しております。なお、平成 21 年度から、秦野市との相互の公共図書館の広域利用について協定を締結しまして広域連携を進めています。現在は、ですから 3 市 8 町と広域利用を行っています。

続きまして、利用状況の変化はあるかということでございますが、今、手元にあります資料では、平成 16 年度からの推移については資料がございます。ちなみに蔵書の冊数でいきますと、平成 16 年度は 2 万 9,000 冊でしたが昨年度は 3 万 4,200 冊に増加しております。また、そのうち児童用の図書につきましては 1 万 1,200 冊、平成 16 年、現在、平成 22 年度に当たり 1 万 3,000 冊です。

また、年間の貸出冊数を見ますと、平成１６年度には３万２，０００冊ほど貸し出しております。平成２２年度は３万４，０００冊です。なお、１日当たりの平均の貸出冊数ですけれども、平成１６年度は約１０７冊、平成２２年度には１１８冊でございます。いろいろ比較対照する数字を上げますと、利用状況については、そんなに大きな変化はないのかなというふうに思っております。また、平成２２年度、開成南小学校の開校や開成小学校の図書室の拡張などを行いましたので、子どもたちが自校で本の貸し出しを利用するという頻度が多くなったというふうにも感じております。このことについても、若干関係しているかなというふうに思います。

続きまして、４番目の一般公募による図書室協議会の設立についてのご質問ですが、開成町民センター図書室につきましては、図書館法第１０条に基づく条例による図書館ではありませんので、図書館協議会は設置しておりません。このことによりまして、任意である図書館協議会を一般公募で設置しようとするものの考えは現在のところ持っておりません。また、町民センター図書室の運営については、今後に対面による利用者の声をお聞きするなど、効率的なサービスの向上に努めてまいりたいというふうに考えております。

子ども読書活動推進に向けての取り組みですが、開成町子ども読書活動推進委員会というものを構成しまして委員の方々から意見をお聞きし、担当部署ごとに具体的な活動の実践に努めてまいっております。

最後に、子ども読書活動推進計画への取り組みについての質問ですが、子どもたちが自主的な読書活動が行えるように、平成１６年３月に開成町子ども読書活動推進計画というものを策定して取り組みを進めてまいっております。具体的には、１歳半健診や３歳児健診でパンフレットを配付したり、町広報の「図書室だより」にて新刊等の情報提供をしたり、春と秋の読書週間に合わせて本の読み聞かせ会の開催をしたり、幼稚園、小中学校と連携した本の貸し出し等を実施しております。今後、子どもの成長に応じた読書のきっかけづくりや読書活動の習慣づけを進めていきたいというふうにも考えております。

また、国の住民生活に光が注ぐ交付金というものを活用しまして、開成小学校と開成南小学校に図書の整備を図りました。開成幼稚園においては、そよ風タイムという時間を設定しまして、幼稚園が終わってバスに乗るまでのわずかな時間を、本の読み聞かせ等をして、落ちついて降園できるような活動を数年前から実施しまして、その成果も確実に上がっているという状況があります。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○９番（佐々木昇）

再質問させていただきます。過去５年間で貸出冊数が３万冊から３万４，０００冊で大きな変化はないということですが、入館者数の変化はどうなっているのか、お聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。入館者数という形ではなくて貸し出し者数という形で、実際に本を貸した方のカウントがこちらのほうでは残っておりますけれども、平成18年では2万1,731人、22年が2万2,174人、そう大差ないところでございますけれども、年度によっては2万人から2万3,000人といったところの変動は、その間で出ております。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

閲覧に来ている方や学習スペースを使われている方も図書館利用者として把握してあるのではないかと思いますので、今後、入館者数の合計もとっていただきたいと思いますけれども、お考えをお聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

確かに、県のアンケート調査等を見ますと、図書館を利用する方の割合の中で、ご自身の趣味であったりとか、または調べものをしたりする場といったところも大きなポイントで出ておりますので、実際に本を借りるという方ばかりではないということも承知をしているところでございます。また、学習の場として学生さんが利用しているといった形態も承知をしているところでございます。ただし、図書館の利用者といったところのカウントで全体を総トータルで何人か、そういった観点も一つ必要かというふうには思いますけれども、ちょうど神奈川県下で図書館法に基づく図書館と私どもの町民センターの図書室、そういった図書室の図書の利用者数の把握状況というのは県で統一されておまして、調査の項目の中で入館者数は貸し出し者数といったようなカウントで入ってございまして、そちらのほうを採用させていただいているというところでございます。ただ、佐々木議員がおっしゃられるとおり、実際に使われている方の生の数字、そういったところも観点の一つではあるなというふうには考えてございます。ただ、今のところ、そういった状況下で、カウントをそこまで広げてやるといったところまでは考えが及んでいないというのが実態でございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

ぜひ、検討していただきたいと思います。

また、このような統計が出されてから、次年度に向けて何か対策や検討をされたりしているのでしょうか、また、行われているのであれば、どのようなメンバー構成でやられているのでしょうか、お聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。入館者数の増加といった観点で申しますと、図書室の行事といたしまして、先ほど教育長のほうからも答弁がございましたけれども、いろいろ事業をやっているのですけれども、月に1回、子どもの広場という、今度やるのは5月に向けてのこいのぼりの作成であつたりとか、あとは月に2回、お話し会ということで読み聞かせをやつたりとか、そういった形での工夫をしながら図書室利用を促進するような取り組みもやっております。また、夏休みのときには、子どもの興味を引くように1日図書館ということで、図書館のいろいろな裏側であつたりとか、そういったところを見ていただくような事業も展開しております。

また、これも先ほど教育長のほうから答弁がございましたけれども、開成町の図書室、大変狭いというイメージを私どもも持っております。確かに、図書館法に基づく図書館をつくりながら広いスペースでやっていただきたいということは山々でございますけれども、また、これは経済情勢とか、そういったところで今後いろいろ形態が変わる場面も出てこようかと思えます。ただ、現状で考えていったときに、開成町の図書室にどんどん来ていただくという方策というのは、なかなか限界に近づいてきていると。ただ、3市8町、21年に秦野も追加されましたけれども、2市8町、そういった大きな図書館もございますし、そういったところの登録者として開成町の方が行って登録するということが既にできるようになってございます。まだまだPR不足というところもございますので、そういったところのPRもさせていただきながら、開成町、ちょっと遠くなってしまうのですが、近隣のところを利用していただくというのも一つの方法かなというふうに考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

選書は、どのような形で、どのようなメンバーでされているのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

選書の方法でございますけれども、選書につきましては、開成町の場合、図書館司書は司書免許をお持ちの方が3名いらっしゃいます。お持ちでない方がやはり3名いらっしゃるのですけれども、計6名いらっしゃいます。図書司書免許をお持ちの方を中心といたしまして、そちらのほうは選書をさせていただいております。これは、1週間ごとに新刊図書の案内というものが届くようになっております。そういった新刊図書の案内とか、あとは各分野がいろいろ分かれていますのですけれども、分野の配分を見きわめながら図書司書さんのほうで選んでいただいているといったところが現状でございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

また、選書する際に、図書室と各学校図書館との連携とかは図られているのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。選書の段階で、毎回毎回、学校要望を聞いているかという、そういったことはちょっとできていないというのが実態でございます。ただ、学校にも図書司書さんという形で町雇用の非常勤さんにいていただいておりますので、さまざまな情報交換をしていただくような形はとってございますので。ちょうど小学校、中学校ともに新学習指導要領が今年度、来年度という形で新たにスタートをするといったところもございますので、その辺の要所要所での連携をとらせていただいているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

具体的に一つ、お話しさせていただきたいのですが、各学校と連携をとることで、重複する本をなくすことで、より多くの本を入手できるのではないかと思います。その取り組みに対してはどういうお考えをお持ちでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。学校というところは、一つの教材を使うと、それに関連した、例えば、夏目漱石の学習をすると、夏目漱石の書かれた本をみんなで読みましょうということになりますので、比較的、冊数が必要なのです。そういうことのために足りない分を町の図書館で借りるというシステムです。ですから、同じものがあっても、それは決して重複ではなくて、むしろ学校で足りないものを町の図書館で借りて読むというシステムですので、案外、同じようなものが必要ということが現状です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

そのように教材に使われるような本、それ以外の本に、そういうことを対応されるようなことというのは考えられませんか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

子どもが読む本というのは、教材から発展したものというのが大体多いものです。ですから、それぞれの国語の教材に出てきた題材でおもしろいものがあつたら、それと同じようなものを図書室で探そうという形ですので。もちろん別のエリア、全く違うエリアのものを読む子どももいますけれども、学校の教科との連携というのが学校図書館あるいは子どもが図書を利用する最大のものです。ですから、今、佐々木議員がおっしゃっているように、娯楽的なものとか雑誌的なものとか漫画的

なものがありますけれども、そういうものについては学校にないものを町の図書館でということはあると思いますけれども、案外、冊数が多いというのは、そういう学校独特の図書の利用状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

一つ、教育会議でお話を聞いたので、ちょっと質問させていただきたいのですが、図書館の経営方針の中に、一般の方がなかなか手に入らない高額な本とか専門書、そういう本に比重を置く形の図書館、または本屋に行けば一般の方もすぐ手に入るような一般的な本なのですけれども需要が非常に多い本、そちらに比重を置く図書館という経営方針を使われている図書館が、数少ないのですけれども、あると聞いたのですけれども、この辺の取り組みで開成町の図書室は取り組んでいるのか、いられないのか、お聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。開成町の図書館につきましては、やはり利用率の高い一般図書のほうを優先に購入するようにさせていただいております。ただし、高額の図書につきましては、例えば、ことしですけれども、ことしは百科事典、世界百科事典というのがございまして、百科事典ですので、当然、最新のものが必要になってくる部分でございますので、そちらのほうを購入させていただきました。ちなみに全34巻で27万円といったところのものを更新させていただいております。ただ、なかなか高額のをぼんと買ってしまいますと、一般図書の広く大勢の方に読んでいただく部分が削られてしまうといったことで、この辺につきましては、やはり経済の状況を見て、配分が多くなったときには、その辺を買うといった工夫をしていきたいというふうに考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

今現在の図書室の運営に関しては、司書の方が素晴らしい働きをされていると。司書の方のどうのこうのということではなくて、やはり司書の方というのは図書のプロであって、その中に一般の方の意見も入れるために、図書館協議会というのはなかなか難しいお話なのかどうか。ボランティア団体を活用するようにしたらどうかと思うのですけれども、その辺のお考えをお聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

確かに、図書館の運営につきましては、いろいろな方式があろうかと思います。先ほど教育長の答弁にございましたとおり、開成町では、リクエストとか、そういったニーズがあったときに素早く対応するという対症療法的なところが現状として

はございます。大きいところでいきますと、ボランティアグループを入れながら、例えば、本の貸し出しで戻ってきた本を分類された書架のほうに戻していくといったようなボランティアがあるとか、そういったことも聞いてございますけれども、ちょうど開成町の場合は、平日の午前中はお1人でやっていただいておりますけれども、午後からは2名で、夜の部になりますと、また男性の方1名という形でやっておりまして、土・日は2名体制、非常勤の図書司書さんにやっていただいておりますので、状況を聞きますと、それで貸し出し等を書架へ戻したりとか、そういった作業的なところではちょうどいい作業量であるといったところも聞いておりますので、適切な場所に戻していただいているといったことも聞いております。そういったことも受けまして、現状のところでは、ボランティアグループの導入といったところは、一つ、将来的な部分では1点、考えていく部分もございますが、現状としてはよろしいのではないかなというところでございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

その辺、図書室の状況を見ながら適宜対応していただきたいと思います。

子ども読書活動推進計画について、お聞きします。平成23年度に神奈川県が、平成22年度における取り組み状況等の調査をしているのですが、その中で三つの項目、関係機関と学校とが連携した事例、障害のある子どもの読書活動推進事例、外国につながる子どもの読書活動推進事例の三つの項目について、この事例を行った市町村にアンケートをとっているのですが、開成町は、その中で、どれ一つも取り組んでいなかったという結果が出ていまして、神奈川県で33市町村の中で四つの市町だけだったのです。また、平成16年に策定された開成町子ども読書活動推進計画について、実施率などは、どのような形になっているのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

まず、1点、連携をどういうふうにしているかといったところで、調査の項目の中であったかどうか、あれなのですが、例えば、開成南小学校が22年から開校いたしまして、順次、図書の購入をして、今年度も2,000冊近く購入をしているわけですが、一遍に何千冊という形が来ますと、とても学校の図書司書さんだけではいけないといったところで、今年度は対応しませんでしたけれども、前年度につきましては、図書室の司書さんにも応援をいただきながら配架をしたりとか整理をしたりとかいろいろやっています。それは実働の部分でございまして、あれですが、一つの連携の状態であるかなというふうに思っております。

あと、学校のほうは司書担当の先生がいらっしゃいますので、そちらのほうとの連携で、先ほど教育長の答弁があったとおり、教材でこういった本が欲しいといった場合、まずは一義的に学校の図書司書さんが学校図書館でそれを何冊か選ぶ。そ

れでも足りない場合は、図書室に連絡をしながら、ほかの図書を借りる手配をとるといった形で連携を実際はとってございますので、それが当たり前の行為だというふうに私どもは思っておりますので、特出しで検査項目に答えなかったのかなというふうに思っております。

それと、あと外国語であったりとか障害者向けであったりとか、そういったサービスの部分でございますけれども、例えば、図書室には点字の図書が39冊、弱視の方向けの活字が大きくなっている図書があるのですけれども、それが23冊、冊数的には微々たるところなのですけれども、そういった方たち用の図書というのも配備はできてございます。ただ、ニーズとして、それがあのかとといったところを見ますと、過去のデータでも余り見えてこないといった状況にあるという現実がございます。ただ、そういった点字のものであったりとか、そういったものというのは、逆に神奈川ライトセンターという専門の県の機関がございまして、そこにはそういった図書がずらっとそろっているというふうに聞いておりますので、そういったところのご活用をされているのかなといったところを推測しております。

あと、最後に子ども読書推進計画の部分でございますけれども、何パーセント推進といったところはなかなか教育の部分では難しい部分でございますけれども、一つの例といたしまして、保育園児の図書室見学をしてもらったり、あとは幼稚園における読み聞かせのサービスを行ったりとか、それと小学生の図書室の見学、図書室を見学する活動をやったりとか、先ほど申しましたが学校への図書の貸し出し、こういった形で子ども読書推進計画にのっとった形で実際には活動させていただいておりますので、それが何パーセントといったところではちょっと表現できかねる部分かと思えます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

開成町子ども読書活動推進委員会という委員会があられますが、この委員の方たちは、どのようなメンバーで、また活動的にはどのような活動をされているのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。まず、委員会の構成ですけれども、教育委員会のメンバーと、あと行政関係、課長さんあたりも入っていただく部分が一部ありますし、保育園、幼稚園、小学校、中学校、あとは図書室の代表の方、それとボランティア団体の代表といった形で委員構成といったところで。実際には、平成16年に、こういった構成でいきたいと思いますといったところで活動展開をしようという取り組みを行ったようですけれども、その下部組織に担当者会というのがございまして、開成町子ども読書活動推進委員会担当者会というのがございます、こちらのほうが、どちらかというと頻繁に行われていて、実際の委員会活動自体は余り活動実績がな

いといったようでございます。こちらの担当者会につきましては、それぞれ実際の本を扱う方たちの担当者が集まるということで、先ほどお話ししました図書室の見学であったりとか読み聞かせのサービスであったりとか、そういったことを行っていきましょうよといった打ち合わせをやっていると聞き及んでおります。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

子ども読書活動推進計画、これを策定されて、子どもたちへの成果、また図書室への影響が何かあったのでしょうか。あったのだしたら、聞かせていただきたいのですけれども。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

一番最初にお答えしましたように、図書室の利用状況の数値化は横ばいということですが、横ばいというのが果たしてどうなのかという評価の仕方はあると思います。今は、ご存じのように、パソコンを使ったり、文字を自分で書いたり読んだりするということが非常に子どもたちの中で少なくなっている。議員の皆さんもそうかと思えますけれども、何かあると、やはりパソコンでつくってしまう。文字に触れる機会がないということをとらえますと、横ばいは決して減少というか退化ではなく、現状維持しているということは、子どもたちの読書活動についての指導が、ある意味では成果を上げているというふうにも考えられます。内容についてはなかなか評価しにくい部分ですが、子どもたちについては、読書は必要ですよ、1日はファミリー読書デーですよ、そして朝と先ほど言いましたように幼稚園の帰りというように読書に親しむ時間を各学校・園で取り組んで、小さな歩みですが、読書推進についてそれぞれの場で進めているということが、ある意味では成果が上がっているというふうには思います。ただ、実質的に本好きになったかどうかということについての評価については、若干、今はできないというふうに思っています。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

滞在型か貸し出し中心型についてですが、これは開成町の図書室で勉強されていた学生さんに聞いたのですが、やはり家だとゲームやテレビなどの誘惑が多いので、やはり図書室の学習スペースが非常に必要だと。また、これは違う学生の方から聞いたのですが、これは開成町の図書室のすばらしいところなのですが、平日、火曜日から金曜日まで、夜8時半まで図書室を開放されております。これは、神奈川県では3カ所しかありません。この8時半までの開放に対して、すごく助かるというお話をされている方もおられました。また、日中、本を読みにくる高齢者のことを考えたりしますと、やはり図書室というのは生涯学習

の場として、ある程度の閲覧、学習スペースが必要ではないのかと思うのですけれども、その辺の町のお考えをお聞きます。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

佐々木議員の質問の最初にありましたように、開成町の教育振興基本計画の中に生涯学習プログラムの充実というのを掲げています。まさに、これが、生涯学習の中で目標や自分のこういうふうなものを学んでいきたいというニーズに沿っていくには、非常に大切なことかなというふうに思っています。ですから、プログラムの充実のための具体的な施策として、こういう図書室のサービスをしているというのが一つです。議員おっしゃいますように、もともと町民センターの施設ができた中で、少しずつ図書のスペースを広げていこう、蔵書もふやしていこう、そして、なおかつ閲覧室もふやしていこう、さまざまな努力をしまして、今年度は視聴覚室を視聴覚室の名のもとに、余り使っていなかったお部屋があるのですけれども、そこを改良しまして、若干、書架も新しくしまして、スペースを広げて、今、34スペース、住民が学習をするスペースがありますので。今の町民センターの物理的な規模からいえば、最大限努力しているというふうに思います。ただ、改良すべき点は多々あると思いますけれども、現状ではベストな方向で今はいっているのかなというふうには思っています。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

今、町民センターに図書室がありますがけれども、また、そこが非常にスペース的に限られているということで、ほかの場所でスペースを探すようなことは検討されたことがあるのでしょうか。例えば、合同庁舎の小田原と一緒になるということで、あそこの合同庁舎の部屋など、その辺とかを検討されたことというのはあるのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

学習室としては、今の合同庁舎の第2別館、いわゆる青少年会館が昔あったところに学習室というのが備えられています。ですから、そこには数多くの開成の子どもたちも行って学習をしております。今、足柄上行政センターに部屋があるかどうかについては若干わかりませんが、聞くところによると、教育事務所さえもいる場所がなく別館のほうに行ったという経緯もあって、土木事務所が入るといっぱいということもありますので、定かではありませんが、私たちが借りられるようなスペースはないのではないかなというふうに想像はしております。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

今後、ほかにそういう場所を探すようなお考えというのは、特にないということ
でよろしいのですか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

現状で、どうしても今の学習室が満杯になっていて、中Bを貸してくれとか中A
を貸してくれとかという町民のニーズによって物理的に新たな場所を模索しなくて
はいけないということが生じた場合は、検討の余地はあるかと思いますが、現
状では、時間的にずれて利用していますので、今の34の席で十分とは言いません
けれども、ある程度は町民のニーズに沿っていけているのではないかなというふう
には考えております。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

図書推進、図書室運営におきまして町民の方のニーズにこたえるというのも非常
に大事なのですけれども、町のほうからの現在の「図書室だより」もすばらしい活
動だと思うのですけれども、そういう活動をもっとふやして、町民の方が図書室に
逆に興味を持つような活動に積極的に取り組んでいていただきたいと思うのです
けれども、その辺の考えについては。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

大変貴重なご意見、ありがとうございます。本当にそうしていくことが望ましい
かなというふうには思っております。ぜひ、そういうふうに取り組んでいきたいな
というふうに思っています。ありがとうございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

すみません。最後になりますけれども、町長に聞きたいのですけれども、町長の
お考えで、中期・長期的にでも図書館建設というお考えはあるのか、ないのか、ち
ょっとお聞かせいただきたいのですけれども。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

簡単につくりますということのお答えはできないのですけれども、庁舎の建設も
考えなくてはいけない時期ですので、トータルで考えなければいけないかなと。開
成駅のほうの開発も進んでおりますので、それも含めながら町全体でどうするかと
いった中の検討事項に入れていきたいと思っております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○ 9 番（佐々木昇）

現在、スペース的にも限りがある図書室で運営も大変だとは思いますが、図書室は英知の泉とも言われておりますので、今後、また、より充実した運営を行っていただくことをお願いいたしまして、私の質問を終わりにさせていただきます。